

令和4年度 みーる平針 事業報告

1 事業概要

障害者総合支援法のもと、利用者に対し生産活動及びその他の活動の機会を提供することにより、利用者が自立した日常生活や社会生活を営むことができるような支援を目指した。また、新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）の発生状況を踏まえ、「感染対策指針」の整備等必要な対策を施すとともに、災害対策として、新たに「自然災害発生時における業務継続計画」を策定し、利用者が安心・安全に通い続けられることを目標に施設運営を行った。

2 事業所運営

(1) 施設整備

情報通信体制の強化を目的とし、業務データを管理・保存するためのサーバーを導入した。また、サーバーに付随する機能を活用することで情報共有を円滑にし、業務効率の向上も図った。

(2) 職員構成

() 内は、非常勤職員の外数

管理者 ※	サービス 管理責任者	目標工賃 達成指導員	職業指導員	生活支援員	計
(1)	1	1	1 (3)	1	4 (4)

※ はあと平針の管理者と兼務。

(3) 会議

会議名	内容	時期	構成
法人運営会議	各事業所の情報共有と法人の運営課題についての議論を目的とした会議を行った。	毎月1回	理事長 常務理事 各管理者
職員会議	作業面・生活面の支援、事業所の運営全般について連絡協議した。	毎月1回	全職員
ケース会議	利用者の支援上の諸課題（緊急対応）等に対する検討を行った。	随時	各担当職員
	全利用者を対象に、個々の支援目標の検討及びまとめ、就労評価を行った。	9・2月	全職員
虐待防止及び 身体拘束等適正化 検討委員会	虐待の防止、支援力の向上を目的として、本委員会の規程及び方向性の確認や、事業所の課題を共有し、セルフチェックも実施した。また、所内研修会も企画した。	6月	管理者ほか 委員2名

(虐待防止及び身体拘束等適正化研修)	虐待防止に関する権利擁護セミナーのアンケート結果を基にして、支援の現状やそのあり方、日頃の悩みを共有しあった。議論を通して現状を振り返ることで、各々の想いを適切な支援に結び付けるためにどうするかを話し合った。	1月	全職員
ハラスメント防止委員会	ハラスメント防止とその適切な対応を図ることを目的として、本委員会や法人の規程を確認し、事業所の課題を共有した。また、セルフチェックも実施した。	10月	管理者ほか 委員2名
感染対策会議	新型コロナを念頭に置き、業務継続計画(BCP)の再共有を実施し、法人内事業所の事例を基にして罹患者発生時やそれを未然に防ぐための対策を協議した。	6月	全職員

(4) 職員研修

月	研修名	場所	参加職員
6月	就労支援研修	オンライン	サービス管理責任者
7月	サビ管更新研修 会計基礎研修 業務効率化研修 虐待防止研修	オンライン	サービス管理責任者 所長 サービス管理責任者 職業指導員
8月	全国知的障害関係施設長等会議 権利擁護研修 強度行動障害支援者養成研修 人材育成研修	オンライン オンライン 西区 オンライン	サービス管理責任者 生活支援員 目標工賃達成指導員 目標工賃達成指導員
10月	感染症対策研修 薬学基礎研修	オンライン	職業指導員 生活支援員
11月	サビ管更新研修	オンライン	目標工賃達成指導員
1月	福祉サービス苦情相談事業研修	オンライン	所長
2月	SDGs 研修 メンタルヘルス講座	オンライン	目標工賃達成指導員 所長

(5) 年間計画

月	行事	行事内容	防災計画
4月	花見	2つのグループに分かれて、神沢池へ花見に出掛け、帰所後には花見団子を食べた。	消防用設備 機器点検

5月			
6月			避難訓練（火災）
7月			消防設備 自主点検
8月	法人夏祭り（中止）	コロナ禍につき中止となった。	
9月			情報伝達訓練、防災対策会議
10月	日帰りバス旅行	長野県の「信州地酒の郷」と「そばの城」へ行き、焼きしゃぶ食べ放題とたい焼き作りを楽しんだ。	消防用設備 総合点検 建物 自主点検 避難訓練（地震）
11月	10周年を祝う会	所内にて、この10年間をスライドショーで振り返り、ビンゴゲームを行い、ケーキでお祝いをした。	
12月	仕事納め昼食会	普段より豪華な弁当として「牛ステーキと豚しゃぶ弁当」を用意したほか、カップ麺やデザートも食べながら、一年の作業を労った。	避難訓練（火災）
1月	初詣	天候不順のため近隣神社への参拝を中止し、お汁粉を皆で食べて年の始まりを祝った。	消防用設備 自主点検
2月			避難訓練（地震）
3月			防災対策会議

(6) 健康管理

利用者の健康保持を目的に、体重測定を毎月行った。また、個々人の基礎疾患や健康課題、配慮事項について、情報交換の機会を保護者と積極的に持つようにした。これらにより、事業所内において、より安全かつ、健康に配慮した支援をすることができた。

加えて、年度末には毎月の体重測定結果を基に、体格指数（BMI）を算出したグラフを各利用者に配布し、ご家庭での健康管理に役立てていただけるようにした。

3 支援概要

利用者の人権と個性を尊重し、それぞれの障害程度や特性に応じた支援を行うことで、地域社会における社会的自立を目指した。また、利用者のニーズに基づく個別支援計画を作成し、職業指導・生活支援という事業所のもつ支援機能を積極的に活用した。

職業指導においては、利用者個々の就労・作業適性について、それぞれの持つ能力や強み、支援が必要な領域について客観的な評価を行った。支援目標を達成するために作業指導を展開し、各利用者が主体的かつ積極的に参加することでやりがいを持てるようにした。活動を通して、就労を続けるうえで必要な社会性の維持・向上も目指した。

生活支援においては、活動のなかで個々の持つADL（日常生活動作）の維持・向上を目指した。また、心身の状況に応じた支援と並行し、利用者同士の心地よい関わり合いが

持てるように働きかけ、一人ひとりが楽しみ、より落ち着いた状態で過ごせるように工夫した。なお、新型コロナに対する感染予防対策も引き続き実施し、コロナ禍における利用者個々の、心情面への変化にも配慮しながら対応にあたった。

(日課)

8:30 ～ 8:40	9:00 ～ 9:10	9:10 ～ 12:00 (10:00～11:00)	12:00 ～ 13:00	13:00 ～ 15:30 (14:00～15:00)	15:30 ～ 16:00
職員朝礼	朝礼	作(休) 業(憩)	昼食休憩	作(休) 業(憩)	清掃 終礼

※作業休憩は()内の時間帯に10分ずつローテーション方式で取った。

※今年度は新型コロナの影響による作業不足期間が短くなり、大半の期間で余暇活動に切り替えることなく、作業活動の提供ができた。なお、感染防止対策として、密集を避けるために活動単位を2グループに分けて別室稼働させ、昼食についても時間差の対応を継続とした。

4 作業活動

「井桁堂 株式会社」「エフワイ成型 株式会社」「株式会社ルーツ」を主な取引先として作業を展開した。自主製品の「ゴミ袋セット」を含め、新型コロナウイルス感染症の影響はあったが、受注は徐々に回復基調であった。自動販売機での「飲料販売」は引き続き、安定した作業の提供機会となり、売上も確保することができた。

長年、作業受注・収入の大きな柱であった菓子作業は「井桁堂 株式会社」の意向により製品の販売が廃止となり、年度途中の12月をもって作業受注も終了となった。これに替わる作業を検討、模索した中で「株式会社 ルーツ」との取引を拡大し、遊技機等の解体作業への取り組みを強化することとした。素材毎の仕分けや電動工具の扱いなど、利用者支援に注力することで、受注量と売上の拡大を図った。

菓子作業が終了するまでの間は引き続き、利用者及び職員は白衣を着用した。また、マスクの着用、手洗い及び消毒も徹底し、作業に関わる全員が衛生意識の向上と維持・管理に努めた。密を避けるために多目的室も活用するなど、環境整備にも配慮した。併せて、工賃の向上を図るために、取引先との受注調整や営業活動を行った。

作 業	内 容	取 引 先
菓子作業	菓子の袋入れ加工	井桁堂 株式会社
ガス器具作業	部品の組み付け、検品	エフワイ成型 株式会社
自動車部品作業	部品の組み付け	ハチライン
解体作業	遊技機等の解体、仕分け	株式会社 ルーツ
飲料販売	自動販売機での飲料販売、在庫管理、補充	地域など
ゴミ袋セット販売	各種ゴミ袋をパッケージした粗品作り	天白区役所

5 平均工賃

13,472 円／月（前年度：10,792 円）… 最高：19,064 円／月、最低：8,288 円／月

6 その他

(1) 体験実習、施設見学など

(延人数)

夏期ボランティア	高校生（中部善意銀行）	12 名
福祉・介護の職場体験	大学生（愛知県社会福祉協議会）	3 名
施設見学（本人）	南養護学校高等部	1 名
施設見学（保護者）	南養護学校高等部	2 名

(2) 広報活動

法人ホームページ、事業所紹介パンフレット及び事業所外掲示板の活用や季刊誌の発行を通じて、地域社会に広く当事業所の活動を伝えられるようにした。

7 利用者状況

(1) 入退所（定員 20 名）

(月末時点の人数)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
入所者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退所者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
利用者数	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22
利用実績	21.0	21.5	20.6	19.3	18.7	21.5	20.6	20.4	20.7	19.1	21.3	21.4

※ 利用実績の年間平均出席人数は、20.5 名 ※ 開所日数：243 日、利用率：93.0%

※ 利用実績、年間平均出席人数及び利用率は小数点第 2 位以下切り上げ

(2) 年齢別

(令和 5 年 3 月 31 日 現在)

性別	年齢									計	平均年齢
	～20	21～25	26～30	31～35	36～40	41～45	46～50	51～			
男性	0	2	0	3	1	1	2	2	11	38.3	
女性	0	1	1	1	2	2	1	3	11	41.3	
計	0	3	1	4	3	3	3	5	22	39.8	

※ 最高年齢は 56 歳（女性）、最低年齢は 21 歳（男性）

(3) 障害別

(令和 5 年 3 月 31 日 現在)

性別	障害			
	知的障害	ダウン症	自閉症	てんかん
男性	11	1	6	3
女性	11	1	1	2
計	22	2	7	5

※ 22 名中、重複障害者は 13 名

(4) 通所期間別

(令和 5 年 3 月 31 日 現在)

期間 性別	1 年未満	1～3 年 未満	3～5 年 未満	5～7 年 未満	7～10 年 未満	10 年以上	計
男性	0	1	2	0	1	7	11
女性	0	0	0	0	3	8	11
計	0	1	2	0	4	15	22

※ 就労継続支援 B 型事業に移行する前の当法人事業所に在籍していた期間も含む。

※ 通所平均期間は 12.7 年、最高期間は 31 年（男性）である。

(5) 障害支援区分別

(令和 5 年 3 月 31 日 現在)

区分 性別	未判定	区分 3	区分 4	区分 5	計
男性	1	3	6	1	11
女性	0	7	3	1	11
計	1	10	9	2	22